

+ 医知創造ラボ



「見えない」のか 「気づかない」のか 同名半盲と半側空間無視

似て見えて **別の障害** — 見分け方とりハビリまで



医知創造ラボ

監修：脳神経内科専門医

左側にぶつかる患者さん。 見えていないのか、気づいて いないのか？

結論

本態が違えば、見分け方もリハビリも変わります。
混同すると、訓練の方向を誤ります。

本日のアジェンダ

1

2つの障害の正体

「見えない」半盲と「気づかない」無視

2

ベッドサイドでの見分け方

対座法・線分二等分・抹消試験

3

リハビリテーションの実際

代償訓練・プリズム・目標設定

CHAPTER

第1章

2つの障害の正体

同名半盲＝視覚そのものが欠ける

視索から外側膝状体、視放線、後頭葉——この**視覚の通り道**が傷つくと、両目とも同じ側の視野が「**見えなく**」なります。

ここが要点

入力そのものの欠損なので、多くは「**半分見えない**」と自覚できます（病識あり）。

半側空間無視＝注意が向かない

こちらは視覚は保たれています。多くは**右半球**、とくに側頭頭頂接合部の障害で、左空間へ**注意が向かず「気づかない」**状態です。

ここが要点

見えているのに気づかないため、**病識が乏しい（病態失認）**ことが多いのが特徴です。

KEY NUMBER

80%

⚠ 見えにくい障害 (invisible disability)

右半球脳卒中の無視は、
最大でこれほど見逃される

Barrett AM. Continuum. 2021 (右半球脳卒中の無視・病態失認)

見えない vs 気づかない — 本態の違い

観点	同名半盲	半側空間無視
本態	視覚入力 of 欠損	空間性注意の障害
代表病巣	視索～視放線～後頭葉	右半球・側頭頭頂接合部
患者の体験	見えない	気づかない
病識	ありやすい	乏しい（病態失認）

CHAPTER

第2章

ベッドサイドでの見分け方

THE KEY QUESTION



**見えていないのか、
見えているのに気づかないのか**

— この1問が、鑑別の出発点になる

所見の出方が違う

検査	同名半盲	半側空間無視
対座法・視野計	境界の明瞭な欠損	正常なことが多い
線分二等分	ほぼ正中	健側へ偏る
抹消試験	探せば拾える	患側を消し残す
模写・描画	おおむね保たれる	患側が欠ける

両方が重なることがある

半盲と無視は**独立した別の障害**ですが、右の頭頂～後頭葉に広がる病変では**合併**します。

⚠ 注意

無視が重いと、視野検査そのものが成立しにくくなります。「**どちらか**」ではなく「**両方あるか**」で診ましょう。

CHAPTER

第3章

リハビリテーションの実際

視覚リハの3つの柱

01

代償

欠けた側を効率よく探
す。視覚探索・スキャニ
ング訓練が中心。

02

回復

視野そのものの回復を狙
う訓練。効果は限定的で
発展途上。

03

置換

プリズムなどで像を動か
す。適応は個別に検討す
る。

主軸は代償 — 探し方を鍛える

欠けた側へ**すばやく視線を送る**視覚探索訓練と、読書訓練が中心です。

エビデンス

探索・読書の成績は**おおよそ4割改善**し、**5年後も保たれた**との報告があります（助言だけでは不十分）。

視覚探索とプリズム順応

患側への走査を促す視覚探索訓練が中心で、**プリズム順応療法**も広く行われます。

温度感

即時の改善は得られますが、**長期の生活自立**への効果は研究で見解が分かれ、なお発展途上です。

「プリズム」は両者で意味が正反対

観点	同名半盲のプリズム	半側空間無視のプリズム
位置づけ	置換（substitution）	順応（adaptation）
ねらい	像が見える側へ動かす	ずれた正中を戻す
作用	視野を光学的に移す	注意の座標を再校正

見落としやすいゴールの取り違え

✕ 検査成績が上がれば、生活の障害も減る

○ 抹消や線分の成績改善と、日常の自立改善は別問題。
目標は後者に置く

「戻す」より「困る頻度を減らす」

視野や注意を完全に戻すことより、**ぶつかる・読めない・見落とす**頻度を下げることが目標になります。

家族・環境へ

病識が乏しいときは、**大事なものを見える側へ置く**など環境調整と家族の理解が支えになります。

今日の3つの持ち帰り

01

見えない/ 気づかない

半盲は視覚入力欠損、
無視は注意の障害。病識
の有無が手かかり。

02

決定的な1問

「見えないのか、気づかないのか」。線分二等分
と抹消で確かめる。

03

プリズムは別物

半盲は像を動かす置換、
無視は正中を戻す順応。
目標は生活の改善。

この動画の参考資料

- [1] Barrett AM. Spatial Neglect and Anosognosia.
Continuum. 2021;27(6):1624-1645.

- [2] Pollock A, et al. Visual field defects in stroke.
Cochrane Database Syst Rev. 2019;5:CD008388.

- [3] Longley V, et al. Interventions for spatial neglect.
Cochrane Database Syst Rev. 2021;7:CD003586.

診断・治療は医療機関にご相談ください。

ご視聴ありがとうございました



概要欄をチェック
要点まとめと出典を
掲載



チャンネル登録
神経の話を
お届けします



高評価で応援
次回もお楽しみに

「見えない」と「気づかない」を見分けることが、
リハビリの第一歩になります。